

2025 年度 札幌学院大学大学院臨床心理学研究科 特別選抜入学試験

小論文 問題

天譴論（てんけんろん）は奈良時代から唱えられていて、自然の運行と人の善悪は特定の関係を持っていて、王の不徳が天変地異を引き起こすと考えられていた。次の文章は、一九二三年九月一日に発災した関東大震災の直後、実業家・渋沢栄一が述べた天譴論とそれに対する菊池寛の文章について述べたものである。これを読んで以下の問1、問2の問いに答えよ。

本文は、著作権の関係により掲載できません。

（野田正影著 『災害救援』 岩波新書 より抜粋。ただし、旧仮名づかい、繰り返し記号などは現代かなづかい表記に改め、一部に読み仮名を付した。）

問1 文意の適切な理解力をみる選択式問題。

問2 人間主体の社会構築をめざしたわが国の近代化の歩みにおいては、天の意（超自然の意思）が人間や人間社会に影響するという考え方は排除されてきたはずであった。

しかし、私たちが人生で思わぬ不幸や病気・災害などの困難に見舞われたときに、自分に直接の原因がないにもかかわらず、こういうことが起きたのは自分が悪かったからだ、自分は罰が当たったのだ、いつかこういう報いのようなことがわが身に起きると思っていた、などと考える人は決して少なくない。この捉え方は人間を超えた天の意思を想定する天譴論の発想と別物ではないのではないだろうか。なぜこのような心理状態が生まれるのか、そしてそのような心理状態にあるクライアントにあなたはどのようにかかわるかについて、800～1200字で述べよ。

問2の評価方法：ループリック評価を実施。評価の観点には、基本的な文章作成力の他、構成力、論理力、表現力、考察力等で構成。